

長久手市大学連携推進ビジョン4U
(改訂版)

令和5年7月

改訂版策定にあたって

本市では、2018（平成 30）年 3 月に長久手市大学連携基本計画「長久手市大学連携推進ビジョン 4U」（以下「ビジョン 4U 」という。）を策定しました。

本計画では「社会貢献」「教育活動支援」「研究推進」「拠点整備」の 4 つのビジョンを掲げ、愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、市が連携し、各大学の特色を活かした活動に取り組んできました。

しかし、2019（令和元）年 12 月から新型コロナウイルス感染症の感染拡大という、未だかつて経験したことがない事態が、私たちの日常に大きく影響を与えました。

その一方で、2021（令和 3 年）年 6 月には、リニモ長久手古戦場公園駅近くに「リニモテラス公益施設」が開館し、大学生が気軽に集い、連携し活動する場が生まれました。

本計画の期間は、2027（令和 9）年までの 10 年間となっており、社会情勢の変化や、国・県の行政施策の動向などをふまえ、必要に応じて随時内容の検討と見直しを行うこととしていますので、以上の点をふまえ、この「改訂版」では、ビジョン 4U を構成する 4 つのビジョンはそのままとし、今回新たな状況の変化により加筆、修正する必要がある部分のみを策定することとしました。

長久手市大学連携推進ビジョン4U

長久手市は、大学連携を4つのビジョンに基づき推進します。

ビジョン1

社会貢献

長久手市は、地域社会が抱える課題解決のために「あなたも一歩、みんなと一歩」をめざして、大学生と地域をつなぎます。

- 1.地域社会が抱える課題に取り組む市民・団体と、地域に貢献したい大学生や市民とが会う場（きっかけ）をつくり、様々な連携をつくれます
- 2.地域社会が抱える課題解決に取り組むために生まれた「連携」を応援するしくみをつくれます
- 3.地域に貢献したい大学生や市民の新たな挑戦を応援し、一人ひとりのボランティアという行動が継続し、新しい連携につながるための環境をつくれます

ビジョン2

教育活動支援

長久手市は、市内にある愛知淑徳大学、愛知医科大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学の4大学（以下「4大学」という）の専門性と特色を生かし、地域課題を解決する社会貢献活動につなげるための教育活動を支援します。

- 1.社会貢献活動にかかわる教育活動を支援します
- 2.社会貢献活動にかかわる教育活動支援の基盤を整備します

ビジョン 3

研究推進

長久手市は、大学の教員、大学生の研究を支援し、長久手市の地域の課題解決と活性化を図ります。

- 1.情報交換と交流、体験する場づくりを進めます
- 2.情報発信、情報共有のしくみづくりを進めます
- 3.研究活動のサポート体制づくりを進めます

ビジョン 4

拠点整備

長久手市は、地域、企業、大学と市とが相互に連携するための、地域連携の活動拠点整備を進めます。

- 1.大学連携拠点体制を整備します
- 2.長久手市による大学連携調整部署の整備を行います
- 3.大学連携活動推進のための委員会を設置します

社会貢献

長久手市は、地域社会が抱える課題解決のために「あなたも一歩、みんなと一歩」をめざして、大学生と地域をつなぎます。

長久手市は、このビジョンの策定にあたっては、「ビジョンづくりだけで終わらないこと」を常に念頭において、4大学の大学生と教職員担当者と一緒に「大学連携の在り方」を考えてきました。その答えをみつけるため、市の課題解決のために奮闘してきた4大学の卒業生（先輩たち）から話を聞いたり、地域社会の幸せを願って懸命に市内で日々活動している実践者から話を聞いたり、ディスカッションをしたり、市内を共に歩きながら「社会貢献につながる活動とは?」「ボランティアとは?」「大学生ができることとは?」「大学と地域が連携することの意義とは?」「連携から生まれる地域社会の幸せとは?」を、何度も繰り返し考えてきました。

話し合う中で、「大学生の活動が、本当に地域社会の幸せ（ハッピー）につながるのか?」という、素朴な疑問も出てきました。これについては、愛知淑徳大学 CCC の10年間の取り組みで育まれた団体や企業の関係者に、「大学連携から生まれた幸せ実感」を聞くことで、大学連携の魅力と大学生の強みを確認しました（長久手市大学連携推進ビジョン4 UP.17-P.26 参照）。

そこで4大学の大学生たちは、「理念を現実にする社会貢献活動やボランティア活動とは、そこに参加する人の成長につながる」と考えました。長久手市民の幸せは、実は大学生にとっても幸せになるということ。そして、大学生一人ひとりの幸せは、地域社会にとっても幸せにつながるということ。

すべての長久手市民の幸せ感の向上に向けて、「ホンキで取り組みたい」「地域の役に立ちたい」。だからこそ、「社会貢献活動やボランティア活動に取り組むみんなでつながりたい」という総意から、この目標ができました。

ここでの「つながり」とは、個人的な人の輪が広がることではありません。地域社会が抱える課題の解決のために立ち上がった人や行動がつながることです。長久手市は、その行動とは、対価や評価を求めるものでなく、一人ひとりの「志」や「夢」から生まれてくる主体的なものであってほしいと考えています。

重点プロジェクト

「あなたも一歩、みんなと一歩」を具現化するため、まずは大学生が地域が抱える課題を「知ること」、そして「感じて考える」ことから「行動する」ことができるようなしくみを4大学と連携してつくります。そのために、大学生一人ひとりの「志」や「夢」が実現できる社会をめざして、長久手市は4大学と連携して、下記のとおり取り組みます。

- 1 地域社会が抱える課題に取り組む市民・団体と、地域に貢献したい大学生や市民とが出会う場（きっかけ）をつくり、様々な連携をつくります
 - 就職企業展のボランティア版のような見本市の実施
 - 社会貢献活動・ボランティア活動の強化月間の設定
 - 大学生に対して地域で活動する学生団体や市民活動団体の周知
- 2 地域社会が抱える課題解決に取り組むために生まれた「連携」を応援するしくみをつくります
 - 長久手市らしいアワード（賞）の設置（副賞を「市広報誌などで、広くPRする機会を得られる」「市に対して課題解決につながる事業提案ができる」など）
 - 協働まちづくり活動補助金制度における学生枠の創設
- 3 地域に貢献したい大学生や市民の新たな挑戦を応援し、一人ひとりのボランティアという行動が持続し、新しい連携につながるための環境をつくります
 - 継続して行動できるための情報を得るための拠点づくり
 - リニモテラス公益施設において大学生をはじめとした市民同士や市民と地域の活動団体をつなぐコーディネーターの利用促進

教育活動支援

長久手市は、4大学の専門性と特色を生かし、地域課題を解決する社会貢献活動につなげるための教育活動を支援します。

1. 社会貢献活動にかかわる教育活動を支援します

- 地域のニーズにこたえるために、大学生が長久手市での地域活動に参加し、学びの機会を得ることを促進する教育面での取り組みを支援します。
- 地域活動にかかわる授業・実習がおこないやすくなる環境を整備します。
- 市民、高校生・中学生・小学生も参加できるアクティブラーニングのプログラムを設置し、大学生を含む地域の多様な市民が学び合う教育活動を支援します。
- 長久手市は、4大学を中心に、近隣大学との情報交換を進めつつ、長久手市内での社会貢献活動に関する情報収集と発信をおこないます。

2. 社会貢献活動にかかわる教育活動支援の基盤を整備します

- 長久手市は、大学生の社会貢献活動・地域活動にかかわるニーズの把握をめざします。
- 社会貢献活動にとって有意義なブックリスト、サイト情報の集約をおこないます。
- 4大学と長久手市との協働で、社会貢献活動への参加のガイドラインを作成し、教育機能の明確化と、リスクマネジメント体制を構築します。地域の企業とのかかわりとして、長久手市内におけるインターシップ事業との連携も視野に入れます。

重点プロジェクト

「日本一の福祉のまち」（一人ひとりに役割と居場所のあるまち）をめざす長久手市において、大学生の社会貢献活動やボランティア活動がそれを推進する一助となるよう、社会貢献にかかわる教育活動を支援します。

1 教育プログラムの提案

- 社会貢献活動・ボランティア活動の理解と方法論
- 長久手市の地域特性と課題に関する理解
- 長久手市のめざす方向性、地域ニーズの理解
- 4大学の専門性を生かし大学同士、大学と地域の連携のあり方
- フィールドワーク:長久手市の歴史、市内の活動現場
- 社会の貢献活動・ボランティア活動への一歩
- 社会貢献活動・ボランティア参加体験実習
- 報告会、ワークショップ

2 事業実施プロセスの提案

- 長久手市は、4大学それぞれの専門性と特色を踏まえ、各大学と教育プログラムに関する検討作業を進めていきます。
- 他の重点プロジェクトとの有機的な結びつきを推進していきます。

ビジョン3

研究推進

長久手市は、大学の教員、大学の研究を支援し、長久手市の地域の課題解決と活性化を図ります。

大学の大きな役割の一つとして研究があります。大学はその研究を通して新しい発見や創造をおこない、社会の課題を解決し、活性化することが期待されています。そして研究活動を真に社会に有益なものとしていくためには、実社会とのつながりや交流が欠かせません。そこでこのビジョンでは、4大学の大学生や教員の研究や活動を支援するために、「情報交換と交流、体験する場をつくる」「情報発信、情報共有のしくみをつくる」「活動や研究のサポート体制をつくる」の三点を推進します。

重点プロジェクト

1 情報交換と交流、体験する場づくりを進めます

長久手市は小さなまちで、様々な研究や活動を密接なコミュニケーションをとりながら進められる良さがります。そこでまず4大学の大学生、関係者、教員や、長久手市の市民、企業、市民団体、職員などが定期的集まる機会を設け、お互いに知り合い、顔の見える関係をつくり、様々な情報交換をする機会をつくります。また、大学生や教員、市民が長久手市のことをもっと知り、長久手市ならではの体験をして、研究活動の新たな発想を得たり、研究のシーズやニーズを探る機会にします。

- 市民や企業、行政がどのように課題を抱えているのか、どのようなニーズがあるのかを知る場をつくり、大学や他の機関との共有性を高めます。
- 市民、企業、大学、行政がどのような研究や活動をしていて、どのような課題解決や地域活性化の能力を持っているのかを知る場をつくります。
- 大学間や大学生間、教員間がお互いの研究や活動について知る場をつくることにより、相互に補完する関係を築きます。
- 大学が研究成果を発表する機会をつくります。
- 市内の歴史の地を巡ったり里山を散策したりしながら長久手市のことをもっと知る機会をつくります。
- 長久手市の特徴である、農ある暮らしを体験するために、穀物や野菜の栽培や収穫体験をするなどの機会をつくります。
- 地域の住民やお年寄り、障がい者、子どもみんなが参加して、フィールドワークを体

験する機会をつくります。

2 情報発信、情報共有のしくみづくりを進めます

前述の機会では深い体験、交流ができますが、常にそのような体験、交流ができるわけではありませんし、限られた人しか参加できません。そこで交流を継続し、活動の幅を広げ、活動や研究の内容を発信するために、情報の記録、蓄積、発信が重要です。

- このビジョンの web サイトや SNS を立ち上げ、活動や研究の情報を記録、蓄積、発信し、次の研究、活動につなげます。
- このビジョンに基づく事業を継続的に実施し、さらに多くの大学生や市民、企業が参加するために、積極的に情報発信します。
- 多くの大学生や地域の住民が参加するために、情報媒体のデザイン性も重視します。

3 研究活動のサポート体制づくりを進めます

このビジョンは単に理論を聞いたり案を検討したりするだけでなく、実際にアイデアを実現し、地域において成果をあげることができる可能性があります。そして本当に計画を実現してこそ大学生が様々な学びを得ることができ、大学も研究の成果をあげ、地域もその恩恵を受けることができます。そのために以下の様なサポート体制を構築します。

- 長久手市や 4 大学が、このビジョンにかかわる事業の立案や事業を遂行し実現するための、4 大学と共有可能なサポート体制の構築を推進します。
- 計画、実行、評価、改善、記録のサイクルを構築します。

このビジョンを実際に遂行するためには、計画を検討、実施し、検証し次へつなげていくサイクルを構築する必要があります。一般的に Plan (計画)、Do (実行)、Check(評価)、Act (改善) という PDCA サイクルがありますが、ビジョンの主体となるメンバーは大学生で、入学や卒業によってどんどん入れ替わっていくため、一般的な PDCA サイクルに加えて Record (記録) を追加します。それによって過去の活動や研究を参照して新たな研究活動に発展していくことができるしくみをつくります。具体的には、

- 1.Plan (計画) :計画を作成する、そのためのアドバイスやサポートをおこなう
- 2.Do (実行) : 計画に沿って実施する、そのためのサポートも行う
- 3.Check(評価) : 実施した計画を長久手市や 4 大学が評価する
- 4.Act (改善) : 実施が計画に沿っていない部分を調べて改善する
- 5.Record (記録) : 計画や実施のプロセスや結果を記録し、発信する

という PDCA サイクルを構築します。このサイクルを確実におこない、長期的に継続して成果をあげることによって、このビジョンについて 4 大学や地域住民、企業、長久手市での認知度を向上させ、スムーズな運営をめざします。

ビジョン 4

拠点整備

長久手市は、地域、企業、大学と市が相互に連携するための、地域連携の活動拠点整備を進めます。

1. 大学連携拠点体制を整備します

- 地域からの声、学生ワーキングにおいて、情報提供や、大学生同士の交流、大学生が集える場、大学生と地域がつながる場を求めるニーズを把握することができました。このニーズにこたえるために、地域、企業、大学、長久手市がより一層連携を進め、事業を効果的に実施するための、大学連携事業の拠点を整備します。
- 特に力を入れるのは、情報を集約し、情報を提供するための機能、大学生同士が集える場、大学生と地域が集える場、地域と連携する事業を進めるための委員会の設置です。

2. 長久手市による大学連携調整部署の整備をおこないます

- 長久手市は、大学連携を調整する担当部署を整備します。また、専属コーディネーターを配置します。

3. 大学連携活動推進のための委員会を設置します

- 長久手市は、地域、企業の情報を集約し、大学生に対して情報を提供するための委員会を構成し、web サイト上での情報集約の拠点も含めて整備します。
- 長久手市は 4 大学を中心に、近隣大学とも情報共有しつつ、4 大学の社会貢献活動やボランティア活動の会議、大学の大学連携担当者、地域活動実践者、企業の大学担当者による会議、報告会、イベントが実施できる場を整備します。
- 長久手市は、長久手市大学連携担当者、教員と共に、4 大学の大学生等も参加する推進部会を構成します。

重点プロジェクト

「日本一の福祉のまち」（一人ひとりに役割と居場所のあるまち）をめざす長久手市の拠点として、リニモテラスなどにおける集いの場と web 上の拠点整備をおこないます。

1 拠点の定義

- 「リニモテラス公益施設（仮称）整備基本計画」に基づく拠点の整備
- 研究、教育、社会貢献活動やボランティア活動に関する情報収集及び発信の場となるインフォメーション機能
- 学生が主体的に会議やワークショップなどの活動を行うミーティングスペースの機能
- リニモテラス公益施設コーディネーター利用の促進

2 事業実施のプロセス

- 地域、大学、企業、長久手市の地域連携に関するこれまでの取組を把握し、アーカイブの作成をします。
- 大学連携調整会議での情報共有を行います。

長久手市大学連携推進ビジョン4U概要

背景・趣旨

○さらなる連携をめざして

市内に4つの大学が立地し、周辺を6つの大学に囲まれる長久手市は、多くの大学や大学生が集まり、大学生に彩られた活気あふれる魅力あるまちです。大学生は地域や企業の将来の担い手として、まちの活力向上に無くてはならない存在となっています。

現在、長久手市は、「全国で一番若いまち」（令和2年度の国勢調査結果）として、継続的に人口が増加していますが、2050年頃には人口が減少し始め高齢化が進み、同時に少子化の影響で、大学に進学する年齢の人口が大幅に減少する状況にあります。大学生数の減少は、地域経済の後退やまちの活力や魅力の低下をもたらす恐れがあります。

また、現在、長久手市と4大学とは、包括連携協定を締結し、これに基づいて、行政と1つの大学との間で連携事業を展開していますが、個別の連携では部分的な効果しか発揮されておらず、様々な課題に対応しきれていないのが現状です。

そのため、4大学とその学生・市民・企業・行政などとネットワークを築いて、最大限の相乗効果を発揮させるためのしくみが求められています。

○高まる大学の地域社会への貢献と連携の機運

東日本大震災において被災地でのボランティア活動が注目されました。また近年では地域に開かれ地域に貢献する拠点として、大学の果たす社会的な役割が見直されています。

文部科学省は大学における教育課程の共同実施制度を設け、その制度の趣旨を、「経済・社会のグローバル化の中、大学は「知の拠点」として各地域の活性化への貢献とともに、国際的な大学間競争の中で新たな学際的・先端的領域への先導的な対応も必要。このため、複数の大学がそれぞれ優位な教育研究資源を結集し、共同でより魅力ある教育研究・人材育成を実現する大学間連携の仕組みを整備するもの」として大学の地域の活性化への貢献と大学間連携を推奨しています。

また、内閣府がおこなった「国民生活選好度調査」では、ボランティア活動として、まちづくり、防犯・防災、学術・スポーツ・文化芸術振興、介護・福祉、健康増進など、様々な事例が報告されており、ボランティア活動などの社会貢献を促進する社会的気運は高まっています

位置づけ

長久手市が定める第5次長久手市総合計画の基本施策「大学をまちづくりに生かす」において、1.大学連携推進協議会の設置、2.大学連携拠点施設の開設、3.大学連携基本計画の策定がうたわれており、大学・大学生を本市の貴重な資産ととらえ、まちづくりに生かす協働のしくみが求められています。

本ビジョンの進捗状況の共有について

長久手市の担当課が施策の実施状況を取りまとめの上、大学連携推進協議会などの団体と、取り組みの課題や進捗状況などについて情報交換をおこないます。なお、長久手市の取り組みについての進捗状況の確認等については、総合計画や関連計画と連動させておこないます。

また、計画期間は2018年度から2027年度までの10年間とします。なお、社会情勢の変化や、国・県の行政施策の動向などを踏まえ、必要に応じて随時内容の検討と見直しをおこないます。

長久手市大学連携推進ビジョン 4U 概要

まちの将来像

長久手市が考える大学連携の推進されたまちには、次のものが挙げられます。

- 大学生がまちに愛着やつながりを持ち、大学卒業後も住み続けたいと思うまち
- まち全体で大学生を育て、大学生の力を十分に生かし、より魅力あふれるまち
- 大学生が社会人をはじめ地域の団体とつながり、大学生ならではの自由で豊かなアイデアが生かされるまち
- まちが大学生の研究や調査、社会貢献活動の実践の場となり、大学生の「やりたい！」という気持ちが実現できるまち

期待される効果

行政

- 大学の有する知識、技術、人材などが、地域とつながることで、最大のネットワークで、地域の課題解決や魅力向上などに取り組むことができます。
- より活発な地域交流によって、地域活動を活性化させることができます。
- 大学生と地域との関係が強まることで、卒業後も地域に住み続ける学生を増やすことができます。

市民

- 地域での交流やまちづくりが活発になることで、市民一人ひとりが居場所や役割を持ち、住みよさや幸せを実感することができます。
- 大学の資産を活用することで、生涯学習の充実や、文化、交流、健康、福祉などの増進に役立てることができます。

大学生

- 一人ひとり「志」や「夢」が実現できるような場を得ることができます。
- 地域活動に参加するきっかけを得やすくなります。
- 地域活動を通して、個人の成長につながる学びを得たり、社会とのつながりを感じられたりすることができます。

大学

- 地域社会を研究や教育の「場」とすることで、より実践的で地域社会に根ざした研究・教育活動を行うことができます。
- 地域での交流から様々なフィードバックを得ることで、研究や教育に生かすことができます。
- 大学間の連携により、より多様で魅力ある研究や教育の開発を行うことができます。

長久手市大学連携推進ビジョン4U 改訂版

発 行 長久手市

住 所 〒480-1196

愛知県長久手市岩作城の内 60 番地 1

TEL 0561-63-1111

FAX 0561-63-2100

E-mail tatsuse@nagakute.aichi.jp